

授 業 科 目 名	こども音楽療育実習	教 員 名	未定	免許・資格 との 関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	
授 業 形 態	実習	担当形態	単独		こども音楽療育士	必修
科 目 番 号	KOD203	配当年次	2年通年	卒 業 要 件	小幼コース	
単 位 数	1単位				幼保コース	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等						
科 目						
系 列						
一 般 目 標	事前事後指導を含めた学内及び学外におけるこども音楽療育の実習を通して、子ども音楽療育の意義や目的を理解し、音楽療育の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的な知識を習得する。					
到 達 目 標	・障害のあるこどもたちと積極的にかかわりをもつことが出来る。 ・支援者の療育の意図を理解することができる。 ・心身の発達過程と音楽的発達との関係を、現場を見て理解することができる。 ・障がい種別の具体的援助方法の意義を見出すことができる。					
授 業 の 概 要	宮崎学園短期大学こども音楽教育センター及び外部施設において、障がいのあるこどもたちとの交流を通して障害児を理解し、更に、音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学ぶ。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシー掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	授業は、通常の授業時間枠では行わず、年間を通して実施する。宮崎学園短期大学こども音楽教育センターにおいて学内実習を15回実施しする。参加した各実習の事前事後指導・実習記録・全体のまとめをレポートし、実習担当者の指導を受ける。更に、外部施設において2日間の学外実習を行う。 1. 実習の段階 ①療育実習の2側面 受動的側面 障害児の観察と理解 能動的側面 障害児と積極的に関わりをもつことが出来る。 ②実習の段階 見学・観察実習、参加実習 2. 実習の内容 ①見学・観察実習 障がい児及び音楽療育の実際を理解する。 ②参加実習 音楽療育場面に参加し、積極的にこども達と関わる。					
学 生 に 対 す る 評 価	単位の認定について 実習記録簿の提出状況 50%、 実習参加状況 50%					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	実習前に対象児を確認し、障害についての理解を深める。 外部施設の特徴を理解する。 実習後には、音楽療育実習記録簿及び音楽療育実習日誌を作成し提出する。					
テ キ ス ト						

参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	『音と人をつなぐ コ・ミュージックセラピー』中島恵子・山下恵子著 春秋社
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	
オフィスアワー	授業以外の空時間に実施（メール等でアポイントを取ること。）